

2 カードのはなし

◆世の中、カード時代！

カード カード カード…電車でもバスでも、プリペイド型のカードやチャージ型のカードを利用する人が増えています。財布の中を見て下さい。銀行や郵便局のキャッシュカードに各種のプリペイドカード、それにメンバーズカード、お店のスタンプカードまで、実にたくさんのカードが入っていることでしょう。

金融機関のキャッシュカードにはデビットカードとも呼ばれるものもあって、現在では大型家電店やスーパー、専門店などでカードの提示とレジの端末機への暗証番号の打ち込みで、現金同様に支払いができる機能を備えるようになりました。また、ほとんどのコンビニ店ではATM機を設置して、現金の引き出しが容易にできるようになりました。

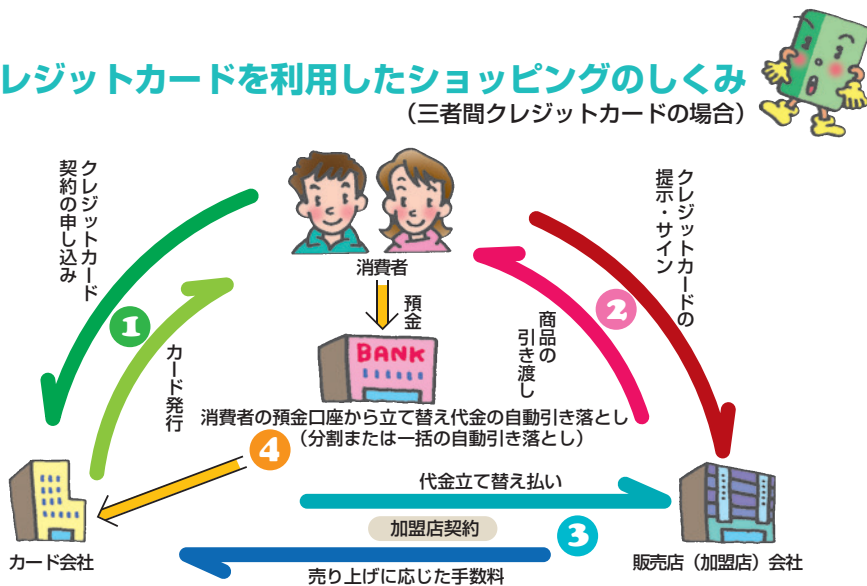
10 ◆クレジットカードの使用は借金をすること、という意識を！

クレジットカードは、現金をもっていなくても、カードを店に提示すれば、ショッピングや旅行などのサービスを楽しむことのできる便利な“ツール”（道具）です。

クレジットカードを作ることは、カード発行会社に対して将来の“立て替え払い”や“分割払い”の依頼を事前にまとめて申し込むことです。買いもののたびにクレジット契約をするのは面倒ですから、手続きをより簡単にしたものといえます。ですから、カードを利用することは、代金を後払いにするだけのことで、借金をすることと全く同じです。

クレジットカードを利用したショッピングのしくみ

(三者間クレジットカードの場合)



カードは“ドラえもん ポケット”ではありません



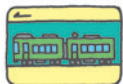
◆プラスチックマネーって何？

今、クレジットカードは、カード会社だけでなく、デパートやスーパー、航空会社なども発行していて、全国で約2億6,600万枚（2016年3月末）にもなります。成人1人当たり2.5枚のクレジットカードをもっていることになります。さまざまな支払いのためのカードが増えて、近い将来、財布をもち歩く必要のない時代がくるかもしれません。

クレジットカードのことを紙幣紙幣に対して、とくに“プラスチックマネー”とも呼びますが、これは何枚ももっていてもけっしてお金の代わりになるわけではなく、使用した場合は、借金をしている、という意識を頭に入れておきましょう。

◆さまざまなカード

プリペイドカード 鉄道やバスのカード、図書カード、ギフトカードなどのように、事前に一定額を支払って購入し、その額の範囲内で使用できるカード。



チャージ型カード（ICカード） 交通機関の利用やコンビニエンスストアでの支払いなどで使えるカード。あらかじめ一定額の現金をカードにチャージして使用し、不足を生じたらチャージ対応機で現金を追加できる。



キャッシュカード 銀行などに口座のある人に発行されるカード。銀行などの営業時間外でも暗証番号や生体認証*によりATMで預金や引き出しができる。



*生体認証：指の静脈パターンなどを読み取って本人確認を行う方法

クレジットカード カードの加盟店で商品の購入をするとき、提示とサインまたは暗証番号の入力のみで支払いが可能となるカード。あらかじめ審査のうえ、クレジットカード会員として申し込むと、カードが交付される。実際の支払いは、分割払いや一括払いにより、後日、カード会社からの請求によって行う。



デビットカード 預金口座の残高の範囲内で支払いが可能となるカード。提示と暗証番号入力またはサインを行い、利用額は銀行口座から即座に引き落とされる。キャッシュカードがデビットカードを兼ね国内の加盟店で利用できるもののほか、最近では銀行がクレジットカードの国際ブランドと提携して発行するデビットカードが増加しており、海外やネットショッピングでも利用できる。



カードがお金を払ってくれるのではありません！

カードの落とし穴

◆こんなことにならないようにご用心！

- カードがあると買い過ぎ、借り過ぎ、遊び過ぎ。
- カードを使いなれると、自分の実際の収入を忘れ、手もちのお金がわからなくなる。
- うっかり支払い日を忘れると、たちまち高い延滞料（遅延損害金）をとられる。
- カードを落としたり盗まれたりして、他人に使われてしまうと、きみに請求がくる。